

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名** グループホーム いずみ山荘

日付 平成19年11月8日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

## 1. 評価結果の概要

### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

黄金色の稲穂が実る田園地帯の一角に、コンクリート打ちっ放しの斬新な建物がある。まるで美術館か博物館を思わせるグループホームであった。有名な建築家の設計で、内部もコンクリート、ガラスと木が調和した大容積の空間であり、田舎暮らしの高齢者にはどのように映ったのだろうか。設立して4年余り経った今日、この建物の中では色々な工夫が施され、利用者は結構馴染んで生活していた。大きな丸い柱に美作八十八ヶ所の巡礼寺の名が貼ってあり、もう半数以上のお寺を巡った様子がわかった。「今度はどこへ行く？」毎年皆で寺巡りをしていると聞いて嬉しくなった。「もうこんなに行ったんですよ」職員が納経帳を見せてくれる。「00経はこうして手をたたくんじゃ」道中お経を唱える人もいて、バスの中では賑やか。行く先々での外食も楽しみ。利用者の信仰心を支える寺巡りを生き甲斐に繋げている。「利用者の重度化は避けられないけれど、行けるうちに連れて行こう。外の空気に触れる事が一番と、積極的に利用者を戸外に連れ出している。今年度のホームの重要目標として“寺巡り”と共に“故郷訪問”も掲げている。その人が元気で暮らしていた所に行き、家族や地域の人との触れ合いを持ってもらおうと考えている。このような心の中の願望の実現に果敢に取り組んでおり、良いと思った事はどうしても実現しようとする心意気を高く評価したい。利用者に対する最高のプレゼントだと思う。このように暮らしている利用者や職員の気持ちや、冷たいコンクリートの空間に暖かさを導いているのだと思った。

“草履作りをして昔を思い出してもらおう”“野菜・花作りなどにも楽しく参加してもらおう”“菊作りをして展示会に出展する”等も今年度の重点目標として掲示してあった。ホームでの行動が具体的で分かりやすい。利用者の立場に立って、利用者自らが慣れ親しんだ事をして、それが形となって表れ、自信を持って生きがいを見つけていって欲しいとの思いが汲み取れた。

「あんな、エプロンの紐がほどけそうだよ」利用者が気付いて職員のエプロンを結び直してあげる。「ほら、きれいな蝶々結びにしてあげたよ」「あら、ありがとう」。何気ないやり取りに、利用者や職員の思いやりと優しさの絆を感じた。

特に改善の余地があると思われる点

行事等に参加した利用者の写真を見せ、その利用者とその時に楽しんだ事や嬉しかった様子等の思い出話をしながら、職員が10～15分で良いから、しっかりとコミュニケーションをして、繰り返して想起する習慣をつけるようにしてもらいたい。

職員と利用者が話をする中で、利用者が経験した事や取得した技能等自ら話している事もある。これは重要な情報となり、ケアに役立つ事もあり、アセスメント等の情報として記録しておく職員の気付きの習慣を作って欲しい。そして職員の共有財産として欲しい。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…特に要改善項目はないが、特別養護老人ホームを母体として持つ事業所だけに、理念はよく浸透しており、もう一步踏み込んで理念を実践する試みが行われていた。</p> <p>2. 全体的に見て…理念は“豊かな自然に触れ合いながら共同生活上で、様々な役割分担を通じて利用者同士に親しい関係が育つと共に認知症の進行を遅らせ利用者一人ひとりの自立または人間性の回復を目指し、利用者の能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来るよう、必要な支援をする”である。その為、今年度は、家族との連絡を密にし、職員の専門性を向上させ、ケアプランを充実させ、自己研鑽に努める事等を事業計画としてあげ、具体的重点目標も話し合っている。開設して4年を経ても初心を忘れぬ姿勢に好感が持てた。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…拘りの洋風の建物なので、入居前の自宅(和風)に配慮し、より家庭的な雰囲気作りを考えている。和風を意識したインテリアや照明の改良や利用者の活動意欲を高める道具物品も検討する</p> <p>2. 全体的に見て…大きなガラス戸はこのホームの拘りの設計で、開放感があり、室内に居ながらにして戸外を感じる。「今夜は月が綺麗よ」居室の掃き出し窓からは外の景色を楽しむ。廊下に挟まれた中庭も双方の通路からよく見え、ガラス戸をあけて行き来も出来る。リビングには食卓と椅子、テレビと長ソファ、畳み風フロアに座卓の和風スペースがある。事務所前や廊下には長ソファと椅子があり、ひと休みしたり仲良し同士お喋りを楽しむ事も出来る。広い玄関ポーチの椅子に座って煙草を一服と、あちこちにお気に入りの居場所がある。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…“利用者の過去の経験を活かしたケア”“利用者のペースを尊重したケア”“一人で出来る事への配慮”に関する改善をあげている。これは認知症ケアの根幹となる事項なので、大変重要でケアサービス全般への波及効果は大きいと考える。一つひとつの改善を積み重ねていってみたいと考える。</p> <p>2. 全体的に見て…“オムツをしていた利用者が自分でトイレに行けるようになった”“何時も怒っていた母さんが、よう笑うようになった”等家族が驚く程、ホームに来てから症状が良くなった利用者が多い。座る椅子をそと後から押してあげたり、車椅子の介助をしてあげる。動きにくい人の食事が終わった膳を台所へ持って行ってあげる等、利用者同士が助け合っている場面がよく見られた。安心して落ち着いた生活からは、自然に優しさや笑顔が生まれることが実感できた。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…ホームは家族同士の交流の場を提供し、交流促進を図りたいと考えている。家族同士横の関係が出来たら、互いに情報交換して視野も広がり、利用者やホームに対する理解も深まる。とてもよい事だと思う。是非実行して欲しい。</p> <p>2. 全体的に見て…母体の特別養護老人ホームでは対応できない利用者について、町役場に相談すると、地域にはまだなかったグループホーム開設を要請された経緯がある。以前から地域との関連が深く、母体の特養との併設効果が、このホームの強みでもある。納涼祭や映画会・演芸会や運動会等、特養の行事に参加出来るし、習字や押し花を特養に来る先生から習う事も出来る。毎朝散歩を兼ねて特養の朝礼に行くのがホームの日課になっている。人との交流が増え、行事や外出が多く、生活にメリハリがついて、刺激があって活気づく。何かあれば特養と連携が取れることは大きな安心でもある。</p>		